

第6学年 総合的な学習の時間 学習指導案

山形市立千歳小学校 教諭 阿部 大輔

1. 単元名 「平和」とは何かを考える ―当たり前ではない山形の「平和」、そして「感謝」―

2. 単元の目標

- ・歴史や今の世界情勢などから、自分の生き方や日常生活を送ることができることへの感謝や有難みを感じ、「平和」について自分の考えをもつことができる。 (知識・技能)
- ・広島市の小学生やユニセフ協会の人、地域の人などの話や調べたことから、自分の「平和」に対する考えや思いを表現することができる。 (思考・判断・表現)
- ・進んで「平和」について調べ、自分なりの「平和」に対する考えをもつことができる。
(主体的に学習に取り組む態度)

3. 単元について

(1) 教材観

ロシアのウクライナ侵攻により「平和」は、私達の住んでいる日本という国にとっても他人事ではなく、全国民が北方領土問題などの課題を改めて見つめ直さなければならないテーマとなった。これからの日本、世界の未来を考える中で、「平和とは何なのか」、「それを続けるということはどういうことなのか」を子供も含め一人一人が考える必要がある。そこで本学習では、平和学習を通したESDを行うにあたり3つの視点で教材化していく。

1点目は、戦争への意識の変化である。2022年2月にロシアによるウクライナ侵攻が始まり、世界に大きな衝撃を与えた。これまで戦争はしない、よくないことだと訴えてきた国際社会において、人の命を奪う恐ろしいことが起こりうるものであるということ、テレビなどのメディアを介して、目を疑いながらも認めざるを得ない出来事となった。今もなお世界のどこかで紛争や暴動などが起きていることはなんとなくは認知されていたが、これまで戦争と離れていた日本や欧米諸国などの人々にとっても戦争が他人事ではないものになり、いつどこで起きてもおかしくないものであるという意識の変化に注目する。

2点目は、自分たちの生活から考える「平和」についてである。「平和」とは何かと聞くと、「争いや戦争をしない」「人を傷つけない」などはよく出てくる。しかし、より自分たちの生活に近づけて考えると「普通の日常生活を送ることができること」「家族と一緒にいられること」「友達と遊べること」など身近なこととして考えることができる。1人1人が「平和」を自分の生活から考え、自分事化する必要がある。広島、長崎の原爆投下、東京空襲、ロシアによるウクライナ侵攻などについては、教師が語る学習を進めてもどこか他人事で終わりがねない場合がある。しかし、これらのことが自分達の暮らしている場所で起きた子供たちにとっては、自分事として考えなくてはならない課題となる。自分事として戦争を捉える広島の小学生とオンライン交流をすることで、山形の子供や教師も「平和」についての価値観を揺さぶり、自分事として考えることができると考えた。オンライン交流では、広島の「平和学習」について学んでいる児童の、自分達が住んでいるまちの復旧や復興、二度と戦争をしない思いなどについて語る姿にで出合わせ、「当たり前」ではない日常生活に対する「有難さ(感謝)」や「幸せ」を再確認させることで豊かな生き方を創造につなげていく。尊い命が失われたり、脅かされたりすることや死を扱うことについては非常に難しく繊細な一面がある。一方で、敢えてそれを学ぶことで、日常生活では考えたり感じたりできないことに触れることができる。それが、児童の価値観と行動の変革をもたら

すものになるのではないかと考えた。

3つ目は、児童に出会わせる地域の戦争についてである。広島の小中学生との出会いから、児童は自分達が暮らしている山形の戦争をしていた時代について知らなければならないという必要感を抱く。広島の小中学生が広島の戦争の被害や復興などについて知っているのだから、自分達も山形の歴史や人々の取り組みや思いなどについて知らないといけないという課題意識をもつだろう。そのような児童たちに校区である千歳地域の戦争に出会わせるために、戦争で亡くなった人をしのぶ慰霊祭に携わる地域の片山氏らと関わらせる。千歳小の敷地内にある慰霊碑の話や千歳地区には銃弾跡のあるガードレールがあることなどを聞くことで、それまで遠い存在だった「戦争」への切実感をもたせ、自分たちにとっても起こりうるものと価値観が揺さぶられ、自分事として「平和」を捉えられるようになると考える。

3つの教材化により、「平和」についてウクライナ紛争や広島の児童といった空間軸で比較するだけでなく、地域から時間軸でも比較し、さらに身近な平和に焦点をあてて追究していく。

(2) 児童観

総合的な学習の時間の導入で、どのようなテーマの学習をしたいかについて児童達と話し合いを設けた。小学4年時から触れてきたSDGsへの関心もあり、17の目標の中から幾つかの案が出たが、その中でも、多くの児童からウクライナ情勢について調べ、「16 平和と公正をすべての人に」を学びたいという意見が出たことから平和問題への興味が伺えた。

本校では、縦割り班活動に積極的に取り組んでいるため、「平和」や「戦争」について深く考える学習には重点を置いてはいない。広島の児童たちのように戦争に対する意識は高くはなく、これまで戦争について学ぶ機会はそれほど多くなかった。児童にとって「平和」というものが当たり前のものと捉えられてしまっている現状がある。

しかし、6学年児童が、テレビのニュースや新聞を見て、ロシアのウクライナ侵攻などについて関心が高かったことから、児童達にとって何か心に残るものがあると感じたため、今後の児童が生きていく中で平和について考えるきっかけになると思った。スピーチタイムや家庭学習で調べてくる児童が数名いる現状が見られた。

(3) 指導観

本学習では、「平和」について児童が自分事として捉え、1人1人が自分に何ができるのかを考え、行動化していくために3つの活動を取り入れた。

はじめに、平和について自分事化するために広島との学校間交流を取り入れて、児童の学びに火をつけた。1回目の交流では、これまで「平和」や「戦争」について考えることがあまりなかった本校の児童が、1年生から6年間「平和学習」に取り組んできた広島の小学生とオンラインを通して交流することで、ストーリーのある学びを創ることができた。広島の児童たちの話から原子爆弾による建物の損壊や被爆者などの被害について知り、戦争の恐ろしさを理解した。児童は、広島についてはたくさんことがわかったが、自分たちが住んでいる山形はどうだったのかを知りたくなった。そこから、戦争があった時代の山形の被害についてインターネットや資料などを使ったり、地域の人から話を聞いたりして調べた。広島について教えてくれた小学生に発表をする目的意識をもって学習に取り組み、「わかりやすい」「見やすい」「聞きやすい」などの相手意識をもって発表の練習をしたことで、表現力を高めることにもつなげることができた。山形の戦争の被害や慰霊祭について、パワーポイントのスライドにまとめ、広島の小学生に向けて発表することでお互いの学びを認め合い、他県の児童と学び合う価値にも触れることができた。2回目の交流では、千歳小の児童たちが調べたことを広島の小学生に発表し、広島と山形の平和について話すことができた。また、「平和」を続けるためにはどうしたらいいのかを具体的

に自分の生活レベルで考え、共有することができた。遠く離れた場所に住んでいてもオンラインを通して関わり、平和な世の中を生きるために何ができるのかを考えることができた。

次に、自分の住んでいる身近な千歳地区の「平和」について目を向ける活動である。本実践において、人との出会いを大切にす。教師が資料を読み聞かせるのではなく、地域のゲストティーチャーに語ってもらい、地域の人と歴史に触れさせた。これにより、児童にとって遠いものであった山形の「平和」を身近なものとして捉えるきっかけにした。児童は熱い思いをもって行動している地域の人から話を聞き、地域の先輩に憧れを抱き、千歳地区に誇りと愛着をもつ大切さを知った。

最後に、児童の行動化を校内だけで終わらせずに社会に出て参画していくことである。単元の終末の「広げる」のところで、千歳地区の町内会長と民生委員を学校に招き、学習のまとめの発表とこれからの千歳地区について語り合う場を設けた。児童の発表を聞いた地域の人からは、「戦時中の食事などを実際に食べて欲しい」と言われたり、実際に満州国から山形に戻ってきたときの話を涙ながらに話してもらったりして、体験することの大切さや戦争の恐ろしさが身近な山形でもあったことなどを学ぶことができた。また、千歳地区では多くの空き家があつて困っている話や児童たちの挨拶が地域を明るくする話などを聞くことにより、千歳地域の一員としての自覚が芽生え、自分たちにとって身近なまちの「平和」を考えることに繋がった。

広島の小中学生と2回交流したことも児童の社会に参画する力の成長に繋がった。山形のことを他県の人に発信する経験は、自分の地域や自分のことを他者に伝える表現力を高めた。数名の児童が有志で参加した東北ESDコンソーシアムの学習発表会では、ESDを学び、実際に行動化をしている子供達に自分たちの学びを発信することができた。個人の行動化で終わるのではなく、社会に出て、自分たちが学んだことを発信することで、学びの価値を高め、話したり伝えたりする力を伸ばすことができると考える。

(4) ESDとの関連

・本学習で働かせるESDの視点（見方・考え方）

- 多様性…一人一人の「平和」に対する考えや思いなどは、様々なかたちであつていい。広島市の小学生やユニセフ協会の人、地域の慰霊祭に携わる人などに関わることで、児童一人一人がそれぞれに「平和」に対する考えや思いをしっかりとつことができる。
- 責任性…世界、日本、千歳地域において、「平和」であるために自分にできることを考え、「平和」であることは当たり前ではなく、思いやりや感謝の気持ちなどをもって生活することを実践する。

・本学習で育てたいESDの資質・能力

- クリティカルシンキング…ウクライナ情勢や広島の子との関わりから、自分たちの生活と繋げて「平和」とは何かについて問い直す。広島市の小学生やユニセフ協会の人、地域の戦没者を慰霊する人などとの関りから、思いやりの心や当たりの有難さについて考える。

・本学習で変容を促すESDの価値観

- 世代間の公正を意識できる
 - …日本のために戦争で亡くなった人がいたことを知り、今も昔も命をかけて守りたいものがあることを理解するとともに、「平和」な世界を実現するために大切なことを考える。戦争後に慰霊する人の思いに触れることで、これからの「平和」について自分なりの考えをもつことができる。

○幸福感に敏感になる、幸福感を重視する

…今ある自分たちの生活は当たり前にあるものではなく、多くの人の努力や命があったからということ
を理解し、思いやりの心や感謝の心について考え、今後の自分の生き方にいかす。

・達成が期待されるSDGs

○16 平和と公正をすべての人に

…平和を続けるために何ができるかを考え、行動し、広島や山形の具体的な戦争の被害や戦争の悲しみを繰り返さないために行われている取り組みなどを広めることで、持続可能な社会をつくる。

4. 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
<p>①歴史や今の社会情勢等について調べ、戦時中の人々の生活や生き方などについて知ることができる。</p> <p>②人の話や資料等から学んだことをもとに、「平和」について自分の考えをもつことができる。</p>	<p>①広島市の小学生やユニセフ協会、地域の方などの話や調べたことをもとに、「平和」とは何かを考えている。</p> <p>②友達や家族、地域の人などから感想やアドバイスなどを受けて、「平和」についての自分の考えをよりよいものにしようとしている。</p>	<p>①進んで「平和」について調べ、自分なりの「平和」に対する考えをもとうとしている。</p> <p>②世の中で起きていることに関心を持ち、日常生活に当たり前のようにある幸せや感謝について考えようとしている。</p> <p>③他者に伝わるように、学んだことをスライドやポスターなどの資料にまとめて、発信しようとしている。</p>

5. 単元の指導計画（全40時間）

次	主な学習活動	学習への支援（・）	評価（△） 備考（・）
1 ・ 2	<p>○総合的な学習の時間で学びたいことを話し合う。</p> <p>・4、5年生で学んだSDGsについて、児童一人一人が興味、関心をもったことについて話し、学年のテーマを決める。</p>	<p>・考えがもてずに困っている児童には、例を挙げ、自分の考えをもてるようにする。</p>	
3 ・ 4	<p>○話し合いから決まったテーマ「平和」について調べ、学習の見通しをもつ。</p> <p>・社会科で学んだ日本国憲法の平和主義から、広島の平和学習について学ぶ。</p> <p>・テレビのニュースなどで流れるウクライナ情勢やインターネットで調べたユニセフについて学ぶ。</p>	<p>・テーマがSDGs 16「平和と公平をすべての人に」であることを確認する。</p> <p>・話し合いの中でテーマを焦点化させ、学びを深められるようにする。</p>	△ウ①
5 ・ 6	<p style="text-align: center;">「平和」について調べ、「平和」とは何かを考えよう。</p> <p>○「平和」について調べる。</p> <p>・タブレットを使ってインターネットで調べたこと、新聞やテレビで見たことをもとに、「平和」について調る。</p>	<p>・資料の信用性に注意したり、根拠にした資料の出所を明記したりすることを確認する。</p>	

7	<p>○広島市立中島小学校 6 年生とオンライン交流し、広島の「平和」について学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 広島の小学生が学んでいる「平和学習」を聞き、原爆について、戦争があった時代の人々の生活や被害についてなどを学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 同じ年齢の人が原爆や戦争の被害について多くのことを学んでいることを知り、戦争をしていた時代の人々について学ぶ価値に気付けるようにする。 	
8	<p>○Unicef 協会の人とオンライン交流し、世界の「平和」について学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 世界には、難民や学校に通えず水を汲む生活を送る子供などがあることを知る。 ・ 世界で困っている人のために、募金活動や援助活動、ボランティアが行われていることを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 山形市出身の方から話を聞くことで、児童が憧れを抱けるようにする。 ・ 自分達の生活水準の高さに気付くことができるようにする。 	
9 ・ 10	<p>○オンライン交流で学んだことをまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 戦争が起きた時代の山形の被害、人々の生活、思いなどについて児童が触れられるような学習展開になるようにコーディネートする。 	△ウ②
11 ・ 12	<p>山形の人々にとっての「平和」とは何だろう</p>		
13 ・ 14 15	<p>○千歳地区の「平和」について調べよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校の敷地内にある戦没者の慰霊碑を知る。 <p>○千歳地区慰霊祭に携わる方から話を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 千歳地区で毎年戦没者を偲ぶ慰霊祭が行われていること、「平和」を願い、行動している人がいることを知る。(「千歳地区慰霊祭」に参加した子供の感じたことや慰霊祭に携わる方の思いを学年の友達に広げる。) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広島小学生から戦争学んだことをもとに、山形の戦争や「平和」について学んだり、考えたりすることができるようにする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 教頭先生から、慰霊祭について話を聞き、地域に対する関心をもつ。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 実際に「慰霊祭」に参加した子供に話をしてもらうことで、より身近な感覚を持って学習を進められるようにする。 	
16 ～ 20	<p>○これまでの学習んだことをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 一人一人タブレットを使って、パワーポイントのスライドにまとめる。 ・ グループに分かれて、広島市の小学校に自分達が学んだことを発表する準備をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 友達と協力して、発表することで一人一人の「平和」についての理解や考えを深めることに繋げる。 	△ア①
21 ・ 22	<p>○広島市立中島小学校 6 年生とオンライン交流し、山形の「平和」について発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学んだことを発表し、意見や感想を受け、修正したり、新たな文や資料を付け加えたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広島小学生と 2 回交流することで、原爆被害を受けた広島に対する思いや千歳地区への愛着や誇りなどの思いを高める。 	
23 ・ 24	<p>○広島小学生とのオンライン交流を受けて、個人の学習のまとめを進める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広島小学生と話して、抱いた疑問や興味関心をもったことについてなどを加えられるように支援する。 	△イ①

25		わたしたちにとってできることは何だろう。	
25 ～ 28	<ul style="list-style-type: none"> ○ウクライナ支援募金に取り組む。 ・全校生に自分達の学んでいる「平和」について、校内放送で知らせ、募金活動を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通して、児童会で「緑の羽根募金」、第6学年児童で「赤い羽根募金」に取り組み、募金に関する知識と取り組み方について理解させる。 	
29 ～ 32	<ul style="list-style-type: none"> ○友達や家族、地域の人などに自分の学んだことを伝えるために、「平和」やこれからの社会についてまとめ、発表の練習をする。 ・わかりにくい文やもっとよくなる点などについてアドバイスをもらい、学習のまとめのスライドや話す言葉を訂正したり付け加えたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ただ調べた文や資料を使うのではなく、自分の言葉で説明したり、発表を聞く人のことを考えてスライドを工夫したりできるように言葉がけをする。 	△ウ③
33 ～ 36	<ul style="list-style-type: none"> ○千歳地区の町内会長と民生委員を学校に招き、自分達が学んだことを発表し、千歳地域の未来について語り合う。 ・千歳コミュニティーセンターにポスターなどを掲示して地域の人に自分達の学びを広める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・千歳地区の「平和」について考えを深める中で、日常生活に対する「感謝」の気持ちを抱けるようにする。 	△ウ①
			
37 ～ 39	<ul style="list-style-type: none"> ○学習のまとめをタブレットで録画し、家族に見せたり、異学年の友達に見せたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表して終わりではなく、これからの未来について考えられるようにする。 	△ア②
40	<ul style="list-style-type: none"> ○学習の振り返りをする。 ・これまで総合的な学習の時間で学んできたことをもとに、持続可能な社会の担い手として自分が取り組みたいことや行動したいことを友達と語り合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGsの目標を例に出し、選択できるようにする。 	△イ②

6. 成果と課題

実践における4つの成果として、児童の授業観察を中心に紹介する。

1つ目にクリティカルシンキングの高まりが見られた児童について紹介していく。広島の小学校とオンラインで交流した後、新聞でロシアのウクライナ侵攻について読んだ児童が「ウクライナは日本のように今攻撃を受けているけれど、ロシアも同じように攻撃を受けているかもしれない。戦争の被害は、ウクライナもロシアも受けていると思う。」と話した。広島の小学生と交流するまでは、ウクライナ側の被害しか意識していなかったが、広島の戦争や原爆の被害を学び、どんな人であれ被害は同じなのではないかと考えるようになった。その後、千歳地区の慰霊祭を開催している人と関わったことから、千歳地区に飛行場があって攻撃されたことを知り、遠い戦争の話を身近な話と捉え、「平和」とは「相手を思いやり、命を大切にすること」という考えをもった。

また、オンラインでの交流が児童の学習に対する探究意識を高め、より詳しく知ることによって知識を深め、具体的な行動に繋げる質の高い学びにすることができた。10月23日(日)に千歳地域戦没者慰霊祭に自主的に9名が参加する姿が確認でき、幼少期に戦争を体験した人から直接話を聞いたり、葉を供えたりするなどの体験を通して、戦没者を偲ぶ人の思いに触れた。12月17日(土)「ユネスコスクール東北ブロック大

会児童生徒の探究型学習・課題研究発表会」では、北海道教育大学石森広美准教授の講演後に自ら話しかけ、発展途上国における貧困について質問し、毎日水を運んで生活し、学校で勉強することができない子供も私達のように学校に通い、勉強できるようにするためにはどうすればよいかなどを問いかけた。意見交換の中で、進んで募金に参加したり、そういった生活をしている人がいることを世の中の人々に広めたりして、自分に何かできることを行動したいと話した。このような姿を参加者に千歳小の児童たちの探究心として評価されてことを、クリティカルシンキングの高まりが見られた場面として紹介しておく。

二つ目に、価値観の変容として幸福感を重視する姿への変容である。

広島市立中島小学校の6年生とオンラインで交流したことから、テレビや新聞を見て、「ウクライナで起きていることが信じられません。私達もJ—A—L—E—R—T（全国瞬時警報システム）が鳴ったら、外国からミサイルがとんでくる可能性があるから、自分の命を守らないといけないと思う」とスピーチタイムで話し、今ある生活は幸せなもので、当たり前ではなく自助の必要性を訴えた。

3つ目に価値観の変容として、ESDの視点である責任性についてである。まずB児について紹介する。

広島市立中島小学校の6年生とオンラインで交流したことから、広島や原爆ドームに関心を持ち、実際に夏休みに家族と広島を旅行した。オンラインを通して交流したことで、同世代の児童の広島について知って欲しいという思いを知った。これが彼の心に大きく響いたと考えられる。父親が自衛官であったことも影響していて、兵器や武器を使って国を護るということと、戦争で人の命を奪ったり、家族を失ったりする悲しさについてどう違うのかを考えるなどして自分なりの「平和」を考えた。教師がさせるのではなく、児童自ら進んで行動したり、考えたりする姿であった。「ユネスコスクール東北ブロック大会児童生徒の探究型学習・課題研究発表会」にも参加する意欲を示しており、自分事として捉えていることが確認できた。

次にC児についてである。総合的な学習の時間で関わった慰霊祭を開催する方のお知らせをきっかけに、地域の遺跡巡りに子供一人で参加した。千歳地域の地蔵尊や戦時中の銃の弾丸の痕が残るガードレールなどを巡り地域の人と交流した。千歳地域の歴史を知りたいという思いから、実際に行動し、学んだことを学年の友達に広めた。またイベントへの参加がきっかけで、千歳コミュニティーセンターの人と繋がり、千歳地域の町内会長、民生委員との交流会を開くことになった。学校での授業を越えた児童の行動が新たな繋がりや学びの広がりをもたらした。

4つ目に、「平和」に関する意識の変容である。体育科の表現の単元において、以下のような児童の姿が見られた。総合的な学習の時間で考えた児童一人一人の「平和」に対するイメージを、体育科の表現の授業の中で身体表現させた。体育の学習ノートの振り返りには、「表現をする前は、原爆の恐ろしさを軽く考えていたけれど、みんなと踊ったことで声に出ないくらいの怖さを感じた」「原爆によって何もなくなったところから、新しい命が生まれる様子を木が育つように体を使って表現できた。広島の人達が言っていた復興や復旧はたぶんこういうことなんだろうと思った。」「戦争が二度と起きないようにしたい」などのことが書いてあった。他人事であった抽象的な「平和」を身体表現することによって、自分事として捉えることに繋げることができた。

今回の授業を本校の教育課程に位置付けていくためには、次の2つの課題が挙げられる。

1点目は、地域人材と教員の引継ぎである。今回の学習では、数名の地域の人にゲストティーチャーとして、学校に来て話をしてもらった。これは、学習の中で、児童の学びを深めたり、意識を高めたりするために必要な要素をもっている地域の人を教師が考え、実際に連絡を取り、児童と関わらせた。まずは、地域の人と関わらせることで、児童にとってどんな学びがあるのかを考え、それが期待できる人物像を設定しなければならない。その後、それに相応しい人物を教師が調べ、学習計画を立て、その人と連携して学習を展開していく。地域のコミュニティーセンターに連絡をすると、地域の人材を調べてくれるため、それを活用するとよいが、なかなか難しい。地域の高齢化や人口減少による影響が大きいことが考えられる。実践で関わった人をリスト化し、学校に残しておくことで今後の学習活動に活かしていくことが大切である。

また、今年度の取り組みが1年で終わるのではなく、継続して行えるようにしていく工夫も必要である。年度末に各学年が行った実践を教職員間で共有し、次年度に活かしていけるような組織的な運営ができるようにしたい。

2点目は、学習課程の見直しである。総合的な学習の時間での学びは、教科横断的に行われ、各教科で身に付けた力を発揮する場でなければならない。また、総合的な学習の時間で身に付けた力を各教科の学習でも活かすことも大切である。行事や縦割り班活動などとの関連性も大事であり、学校全体として児童に身に付けさせたい力を明らかにし、児童の意識と行動の変革に繋がられるような教育課程を見直していかなければならない。各学級、各学年だけの範囲に留まらず、学校全体の教育課程においてデザインしていき、教員間でもより質の高い学びが行われるような意識を共有し、組織的に取り組んでいく必要がある。

最後に

“人との関わり”は児童の質の高い学びに繋げるために不可欠なものであったと言える。特に、広島市の小学6年生との関わりは児童一人一人の表現力（声の大きさ、文章構成、伝わりやすい言葉の選択など）を著しく成長させ、社会を見る視点のレベルを高めた。人と関わることで、児童の学ぶ意欲を向上させ、必要感のある学びが、学習指導要領に記載された資質・能力を児童に身につけさせるということがわかった。

今後も児童に本物と出合わせ、それをきっかけに自ら進んで学ぶことを軸とした価値ある資質・能力が身に付けられる実践ができるように努めていきたい。

また、地域の人々の心にも火を付けることができた。地域の人達は、学校で児童に伝えたいことがあったもののその場がなかったことが課題であった。今回地域の人に児童の学びを話す場を設けたことで、交流の輪を広げることができた。学校と地域の人々の関わり方の例を示すことができたことは、今後の地域に開かれた学校の活動に繋がる。地域素材を活かした学習作りには課題があるが、実践積み重ねていくことでESDの良さが周りの教員にも認知され、広まっていくことが期待できる。今後は、校内での研修会などを活用して、学校単位で取り組んでいけるように努めていきたい。

現在の学年終了時に目指す姿

「平和」に対する自分の考えを持ち、当たり前ではない日常生活を続けるためにできることを考え、それを意識して行動することができる

16 平和と公正をすべての人に



17

ハートナーシップで目標を達成しよう



社会科「わたしたちのくらしと日本国憲法」

日本国憲法の平和主義は市や国の政治に反映されていることや、唯一の被爆国として平和主義をアピールしていくことの大切さを理解する。

広島の小学生と話を
して、平和学習につ
いて学びたいなあ。

戦争の悲惨さや平和の尊
さを伝える活動が、憲法の平
和主義の精神を実現する取
り組みになるんだな。

地域の戦没者慰霊祭に携わる人との交流

山形の戦争があった時代について知り、一人一人
が平和に対する考えを持たないとなあ。

国語科「平和のとりでを築く」(光村図書)

世界の平和を願って行動している人がいること
を知り、原爆や戦争による被害を二度と起こさない
ために一人一人ができることを考える。

平和を願い、平和を続けるために活動している人
がいる。私にもできることはないかなあ。

総合的な学習の時間

「平和」とは何かを考える

一当たり前ではない山形の「平和」。そして「感謝」一
歴史や今の世界情勢などから、自分の生き方
や日常生活を送ることができるとことへの感謝
や有難みを感じ、「平和」について自分の考え
をもつ。

○主に養いたいESDの資質・能力

クリティカルシンキング…今まで考えること
が少なかった「平和」について、ウクライナ情
勢など今世界で起こっていることをきっかけ
に、「平和」とは何かについて考える。広島市の
小学生やユネスコ協会の人、地域の戦没者を慰
霊する人などとの関りから、思いやりの心や当
たり前の有難さについて考える力を育てる。

○主に育てたいESDの価値観

世代間の公正…日本のために戦争で亡くなっ
た人がいたことを知り、今も昔も命をかけて守
りたいものがあったことを理解するとともに、
「平和」な世界を実現するために大切なことを
考える。戦争後に慰霊する人の思いに触れるこ
とで、これからの「平和」について自分なりの
考えをもつ。

広島市立中島小学校とのオンライン交流

体育科表現「伝えたい!『平和』という当
り前ではない幸せ!」

自分の身体を使って表現することで「平和」につ
いて自分事として捉え、児童一人一人が「平和」に
対するイメージをしっかりとつとめ、又はイメージ
を捉え直すことができるようにする。

ユネスコ協会とのオンライン交流

社会科「世界の未来と日本の役割」

世界にはさまざまな課題があることを知り、自
分にできることを考え行動する。

世界には毎日水運ん
でいる子供もいる。私
たちが学校に通えるこ
とは当たり前ではない
んだなあ。

国連が掲げるSDGs
についてもっと調べ
て、自分にできること
をやりたい。

広島の小中学生から学んだことをもとに、恐ろしさ
や命の尊さなどを自分なりに表現したいなあ。